

3学期の始業式（1／6）から

各学年の代表生徒による「3学期誓いの言葉」では、飛田龍茉さん（1－1）からは『その場にふさわしい行動がとれるよう、みんなで協力し合う。授業態度を見直し、苦手教科もきちんと復習し頑張りたい。挨拶には、された人もした人も、どちらも気持ちが良くなり笑顔になる力がある。誰もがされて嬉しくなる挨拶を目指していきたい』。金島真優さん（2－1）からは『寒さを吹き飛ばすくらい明るく爽やかな挨拶を心がける。最上級生になるまで残りわずか、生活面全般に自覚と意識を高め過ごしていきたい。学習面では苦手な部分の克服に力を入れ、納得できる結果が出せるよう努力する。また、美術部の部長として全体を引っ張り、最後まで責任を持ってやり遂げたい』。中島逸斗さん（3－2）からは『僕たちの目標は、自分の決めた進路を叶え、全員が笑顔で一中を卒業すること。そのために、挨拶や礼儀を見直し、普段から意識して生活していく。自主学習を集中して時間を増やし、質と量を高めていきたい。3年生はこれまで、学年や学級の団結力を高めてきたので、その団結力で受験を乗り越えていきたい』、とそれぞれ力強く発表してくれました。

校長からは、次のような話がありました。

1月は、暦の上では1年のスタートですが、学校の1年では、しめくくりの大切な学期となります。「終わりよければすべてよし」とよく言われます。この言葉の意味は「物事は結末が立派にできていれば、途中の失敗などは問題にしない」、とされています。もちろん、その意味が正しいとは思いますが、「終わりよければすべてよし」には、もう一つの意味があり、その意味もとても大切だと考えています。

それは、「最後だから、最後に向けてしっかりやろうと、意識して行っていくことが、あらゆることを良い方向に持って行く」という意味です。ぜひ、「最後に向けてしっかりやろう」という気持ちで、大切な3学期の学校生活を送ってほしいと思います。そのことが、あらゆることを良い方向に持って行ってくれるはずですよ。

（始業式の校長の話から抜粋）